

岡田暁生教授 退職記念講演会

[講演] 岡田暁生 (京都大学人文科学研究所教授) [会場参加] + [オンライン]

音楽研究は大学教育の 対象たりうるのか？ ——その「実用性」を考える



2025年3月6日(木)

15時00分～17時30分 (開場 14時30分)

京都大学人文科学研究所 大会議室

[司会] 小関 隆 (京都大学人文科学研究所)

[主催] 京都大学人文科学研究所

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

[問い合わせ] 京都大学人文研アカデミー

Tel. 075-753-6902 (平日9:00-17:00)

e-mail. z-academy@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

(人文研アカデミー専用メールアドレスのため、総務掛宛のお問い合わせには対応できません。)

<https://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp>



[会場参加] 事前申し込み不要、先着順

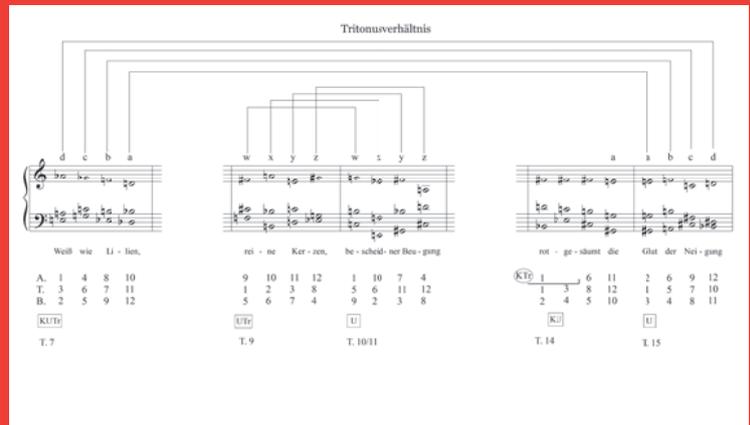
[オンライン] 裏面記載のリンクから事前登録をお願いします

岡田暁生教授 退職記念講演会

音楽研究は大学教育の対象たりうるのか？ —その「実用性」を考える

日本で音楽研究はあまり大学における教育研究の対象とは思われていないようです。それはあくまで個人の趣味であり、気晴らしであり、いいところ「教養科目のひとつ」という位置づけが一般的ではないでしょうか。今や実学一辺倒に傾斜しつつある今日の大学において、「一般教養科目」の居場所すらどんどん狭められつつあることは周知の事実です。この趨勢にあって音楽研究など、真っ先にリストラ対象になりかねません。

確かに音楽研究は直接の実用性はもちません。戦争を終わらせることも出来なければ、病気を治すことも出来ない。しかし「実用性」の枠を少し広くとってみましょう。音楽とは空気を震えさせる芸術です。見たところそれはただの空気振動の遊びに見える。しかし振動とは気配です。極めて抽象的なかたちで音楽には、社会の欲望や不安の振動が露呈されるのです。人々を共振動させるのです。その意味で音楽を研究するとは「社会の気配を読み解くこと」にほかなりません。それを不要不急とは言えないでしょう。この意味で音楽研究もまた十二分に「実用性のある教養」たりうるのです。



Akio Okada

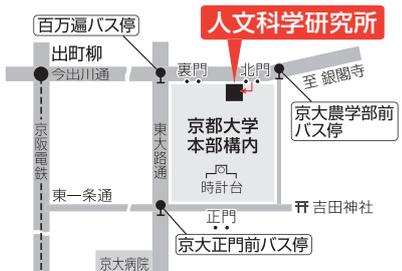


オンライン (Zoom ウェビナー)

事前登録はこちら

URL

https://zoom.us/webinar/register/WN_brOooqddS-eJBuWA82zQUA



- 京阪電鉄
「出町柳駅」下車徒歩15分
- 市バス
3・31・65・201・206系統「百万遍」下車
7・203系統「京大農学部前」下車徒歩1分
- hoopバス
「京都大学前」下車徒歩8分

※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。